

基本構想に係る検討事項について

1. 山北町をとりまく課題（P6、7）

■「地域医療・救急医療体制の確保・継続」

- ・安心して受けられる日常の医療や救急医療の体制が求められており、県や近隣自治体とも連携を図りながら、足柄上地区全体として医療体制の充実の取り組みを進めていく必要があります。

■「福祉・介護サービスの整備、充実、高度化」

- ・高齢化の進捗と共にサービスは高度化・多様化しており、サービス提供体制の基盤となる介護・福祉人材の不足が懸念されています。安定したサービス提供体制とするためには、人材育成・確保のための取り組みを、県や近隣自治体、事業者と広域的に進めていく必要があります。

■「文化財の保護と活用」

- ・地域の特色ある歴史を伝える文化財や、長年地域で守られてきた伝統文化に対する理解を深め、学びやふれあいの機会を通して郷土愛を育むなど、文化財の保存、継承につながる啓発や取り組みを行う必要があります。

■「大規模災害への備え、防災意識の向上」

- ・町民の生命・財産を守るため、あらゆる災害を想定した強いまちづくりを進めていく必要があります。ハード面の強化はもとより、防災意識の啓発や、自助・共助・公助の役割を認識し、被害を最小限に抑える取組みが重要です。

■「空き家・空き地、遊休地の有効活用」

- ・町内には、管理されていない空き地や空き家が散見されています。人口減少課題の解決に向け、移住者を受け入れていくために、良好な住宅地の確保及び、空き家の有効活用を図っていく必要があります。

■「人口減少、少子高齢化に伴う地域コミュニティの強化」

- ・人口減少、少子高齢化といった避けられない問題に直面しながらも、コミュニティ活動の活性化に繋がる施策を、町民と協働で検討していく必要があります。

■「森林の持つ多面的機能の持続」

- ・本町の総面積の約 90%を占める森林は、水源のかん養、土砂災害の防止、地球温暖化の防止、木材等の林産物の供給、保健休養の場の提供などの極めて多くの多面的機能を有しており、将来にわたり植栽、保育、間伐等の森林整備を推進する必要があります。

■「遊休農地対策」

- ・高齢化や人口減少等により農業者の減少が進み、遊休農地が拡大し、地域の農地が適切に利用されなくなることが懸念されています。地域において農地の集約化等に向けた取り組みを進め、目指すべき将来の農地利用の姿を明確化し、地域内外から農地の受け手を幅広く確保する必要があります。

■「山北駅周辺等商店街の空洞化、就労希望者のニーズの変化」

- ・山北町の玄関口である山北駅周辺は高齢化や後継者不足等の理由で商店が廃業し、商店街の空洞化が進んでいるほか、就労希望者のニーズの変化に伴い、希望職種と就労の場のマッチングが低迷していることから、町商工会と連携を図り、商業活動の支援や雇用の安定を図る取り組みを進めていく必要があります。

■「(仮称) 山北スマートインターチェンジ周辺整備による土地の有効活用」

- ・(仮称) 山北スマートインターチェンジ周辺土地利用構想に基づき、「道の駅山北」や「河内川ふれあいビレッジ」などの観光施設を再整備し、町の新たなゲート景観づくりを進めていく必要があります。

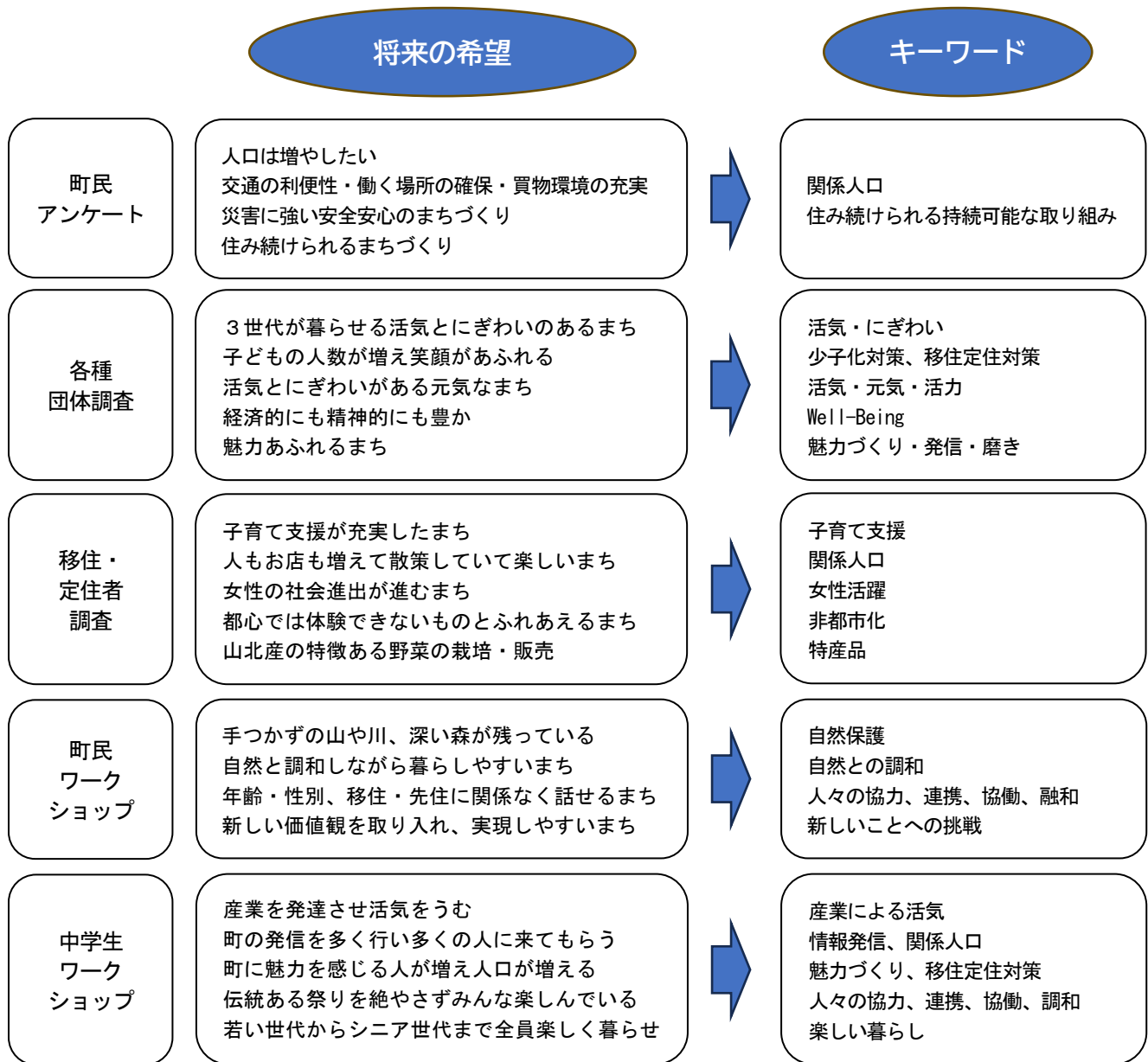
■「地域の実情にあった公共交通の確保、利便性の向上」

- ・交通事業者と連携・調整を図り、町の基幹交通である J R 御殿場線、富士急湘南バスの輸送力を維持していく必要があります。また、公共交通不便地域に住んでいる方などが、生活しやすく移動に困らないまちづくりが急務となっています。

2. 将来像 (P16)

■「将来像」とは

- ・第6次総合計画はバックキャスティングの考え方をを用いて策定。
- ・将来像は「10年後に目指す、こうありたいというまちの姿」を示すもの。
- ・従来の町民アンケートだけでなく、町民や中学生を対象としたワークショップや、各種団体や移住・定住者へのアンケート調査を行い、「将来どのようなまちでありたいか」をお聞きした。



求められているまちの将来の姿
→ 資料2 16 ページ 下段四角囲み
【持続可能で元気なまちの姿】

■これまで審議会へ提示した「将来像」案

第2回審議会 「みんなで作る みんなのやまきた ～持続可能なまちづくり～」

第3回審議会 「みんなで作る 持続可能で元気なまち 山北」

※第5次総合計画では「みんなで作る 魅力あふれる元気なまち やまきた」

「みんなで作る」には、役場だけでなく、住民や移住者、観光客、関係人口、学生・企業・団体等、すべての関係者とまちづくりを行っていく、という意味を込めています。

「持続可能」には、自然環境を守り、育て、活用していくことや、住み続けられるための取り組み、例えば関係人口の増加や災害に強いまちづくり、山北の魅力づくりなど、幅広い内容が含まれています。

■審議会でのご意見

- ・世界共通の目標である「持続可能」という言葉は、町の計画には大きすぎるのではないか。
- ・温かみのある言葉がよいのではないか。
- ・「住みたい」「住み続けたい」といった言葉を入れてはどうか。
 - ☞ 「住みたい」「住み続けたい」と思われるような町の魅力や特徴、活力、居心地の良さや心の豊かさなどが実感できることが求められている。
- ・自然が素晴らしいことが分かる言葉を入れてはどうか。
 - ☞ 都心から近い山北町は、こうした恵まれた自然環境を守り、育て、活かしていくことが求められている。
- ・町外に向けて町の魅力を発信できるような表現にしてはどうか。
- ・「みんなで作る 元気あふれるまち やまきた～住み続けられるまちづくり～」はどうか。

■新たな「将来像」案

みんなで作る ころろ豊かに暮らせるまち やまきた ～持続可能なまちづくり～

3. 将来人口フレーム (P18)

■厚生労働省 平成25年～平成29年

人口動態保健所・市区町村別統計 (令和2年7月31日)

・出生、死亡数等、国勢調査の年(平成27年度)を中心とした平成25～29年の5年間の日本における日本人の人口データを基に、合計特殊出生率等、市区町村別に作成したもの。

最上位 最下位	全国平均	1.43	神奈川県平均	1.36	静岡県平均	1.54
	沖縄県金武町	2.47	県西地域平均	1.29	小山町	1.55
	大阪府豊能町	0.84	小田原市	1.31	御殿場市	1.75
	岡山県奈義町	1.84	南足柄市	1.36		
	熊本県菊陽町	1.88	中井町	1.14		
	千葉県流山市	1.58	大井町	1.30		
			松田町	1.29		
			山北町	1.27		
			開成町	1.54		
			箱根町	1.13		
			真鶴町	1.31		
			湯河原町	1.20		

■厚生労働省 令和4年 人口動態統計 (令和5年9月15日)

全国平均	1.26	神奈川県平均	1.17	静岡県平均	1.33
------	------	--------	------	-------	------

■推計試算

合計特殊出生率	山北町 ↓現状	採用値 ↓設定値	県西地域平均 ↓設定値	開成町・小山町 ↓設定値			
	1.2667	2.1	1.3	1.6			
	2020年	2030年	2035年	2030年	2035年	2030年	2035年
総数	9,761	8,653	8,112	8,523	7,863	8,572	7,957
0～4歳	186	290	312	205	193	237	238
5～9歳	313	261	290	216	205	233	237
10～14歳	323	186	261	186	216	186	232
15～19歳	380	313	186	313	186	313	186
20～24歳	364	322	312	322	312	322	312
25～29歳	330	379	322	379	322	379	322
30～34歳	353	363	378	363	378	363	378
35～39歳	416	329	362	329	362	329	362
40～44歳	528	351	327	351	327	351	327
45～49歳	596	412	349	412	349	412	349
50～54歳	637	521	409	521	409	521	409
55～59歳	654	583	514	583	514	583	514
60～64歳	796	615	572	615	572	615	572
65～69歳	923	616	593	616	593	616	593
70～74歳	1041	725	585	725	585	725	585
75～79歳	698	800	667	800	667	800	667
80～84歳	564	818	694	818	694	818	694
85～89歳	408	447	625	447	625	447	625
90歳以上	251	323	354	323	354	323	354
		2033年	8,328	2033年	8,127	2033年	8,203